

水のいのちとものづくり中部フォーラム  
シンガポール国際水週間 2010 水エキスポ 出展報告書

本フォーラムは、6月29日～7月1日に開催された「シンガポール国際水週間 2010 水エキスポ」におけるジェトロ主催の「ジャパンパビリオン」にブース出展した。

シンガポール国際水週間は、水処理に係わる政策立案者、指導者、専門家、事業者等が一同に会する世界的な情報交換・ビジネス展開の場となっており、今年は28の国・地域から450の企業・団体が出品。本フォーラムは、これまで中部が培ってきた水の技術や知恵、先進的な取り組み等、世界の水関係者に幅広く発信して、ビジネス機会の創出を図った。詳細については以下の通り。

1. シンガポール国際水週間の概要

- (1) 名称：シンガポール国際水週間 2010 水エキスポ
- (2) 会期：2010年6月29日(火)～7月1日(木) <3日間>
- (3) 開場時間：9：30～17：30
- (4) 開催地：シンガポール  
サンテック・シンガポール国際会議展示場  
Suntec Singapore International Convention and Exhibition Centre  
Level 6, ホール 601-603
- (5) 主催：Singapore International Water Week Pte Ltd.
- (6) 規模：10,600 m<sup>2</sup>
- (7) 出品者数：28カ国・地域、450社・団体
- (8) 来場者数：85カ国・地域、14,000人以上

2. 日本パビリオン概要

- (1) 主催：日本貿易振興機構（ジェトロ）
- (2) 特別協力：特定非営利活動法人 日本水フォーラム
- (3) パビリオン面積：336平米、28小間（1小間あたり12平米）
- (4) 参加構成：16の企業・団体

3. 参加メンバー

豊田通商2名、日本工営1名、大成建設1名、博報堂2名、ジェトロ名古屋貿易情報センター1名、COP10事務局2名、中部経済連合会2名  
合計11名

#### 4. 出展目的

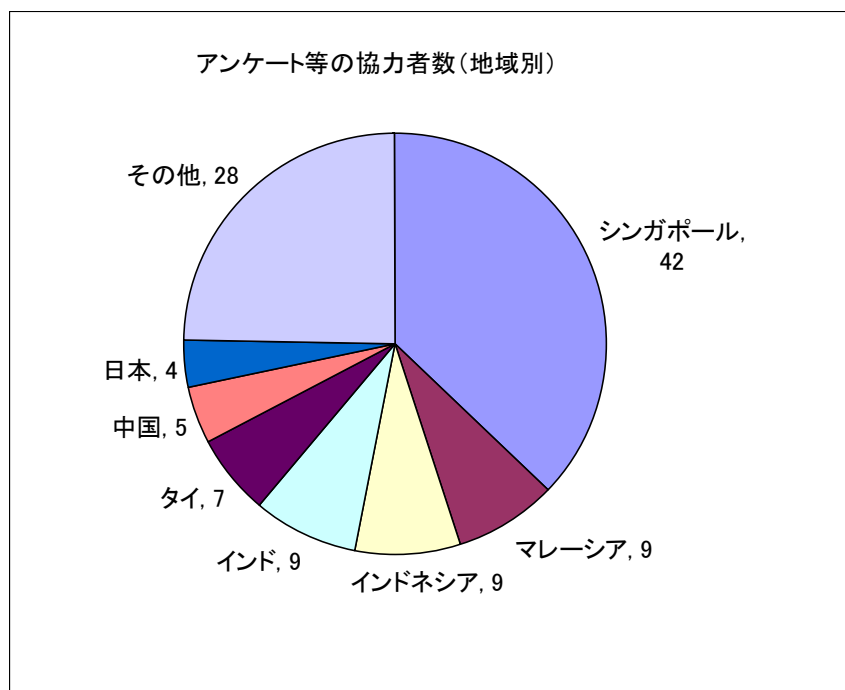
出展の所期の目的は下表の通り。

	出展目的	期待される効果
1	本イベントへの出展による存在感をPR、多様な水問題を解決できるポテンシャルをPR	潜在的利用者への訴求
2	ブース来訪者等との名刺交換による人脈づくり	海外の水インフラ事業者等の発掘
3	ブース来訪者等からの海外における水環境の実態に関するヒアリング	海外における水環境の実態を把握

#### 5. 来訪者について(来訪者数：1000名以上。うちアンケート協力者等：113名)

本フォーラムのブースには、1000名以上の来場者が立ち寄り、そのうち113名の来場者にアンケート等のご協力をいただいた。地域別では、シンガポール国内およびアジア地域が最も多く、他に中東、アフリカ地域等の水関係者が来訪した。また、「トップセミナー」(時事通信社シンガポール支局主催)「東南アジアビジネス・フォーラム」「日本ビジネス・フォーラム」「日本パビリオン・レセプション」においても、チラシを配る等、本フォーラムのPRを行った。

<アンケート等の協力者数> 113名



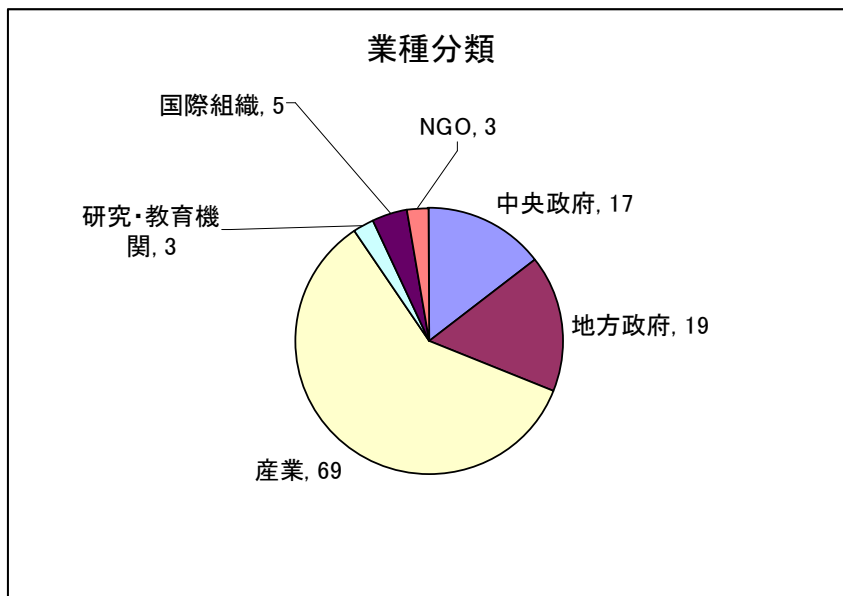
※ その他(3名以下の国)

3名：アメリカ、フィリピン

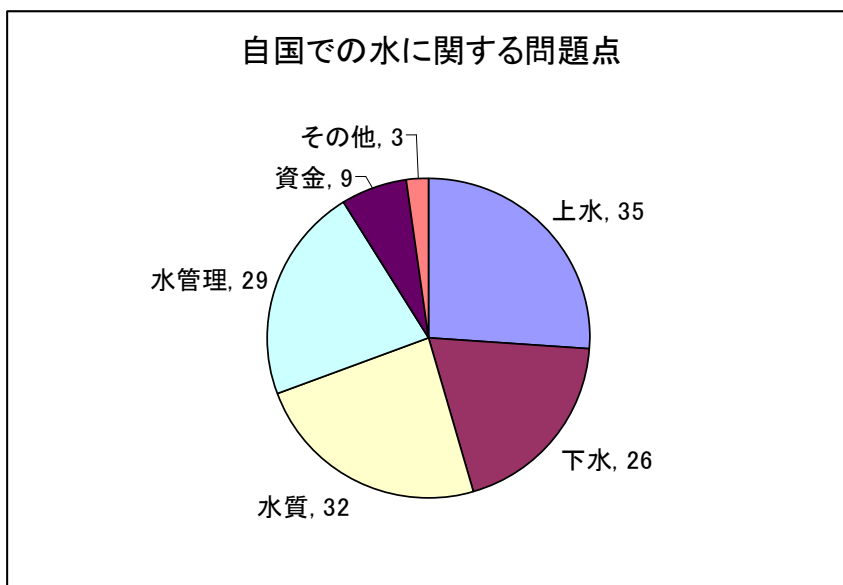
2名：ベトナム、スリランカ、クウェート、オーストラリア、香港、ナイジェリア

1名：カタール、メキシコ、サウジアラビア、U.A.E、モルディブ、ウクライナ、パキスタン、ミャンマー

<業種分類について>



<自国での水に関する問題点について(複数回答)>



6. 今回の出展に関して (成果、反省、感想など)

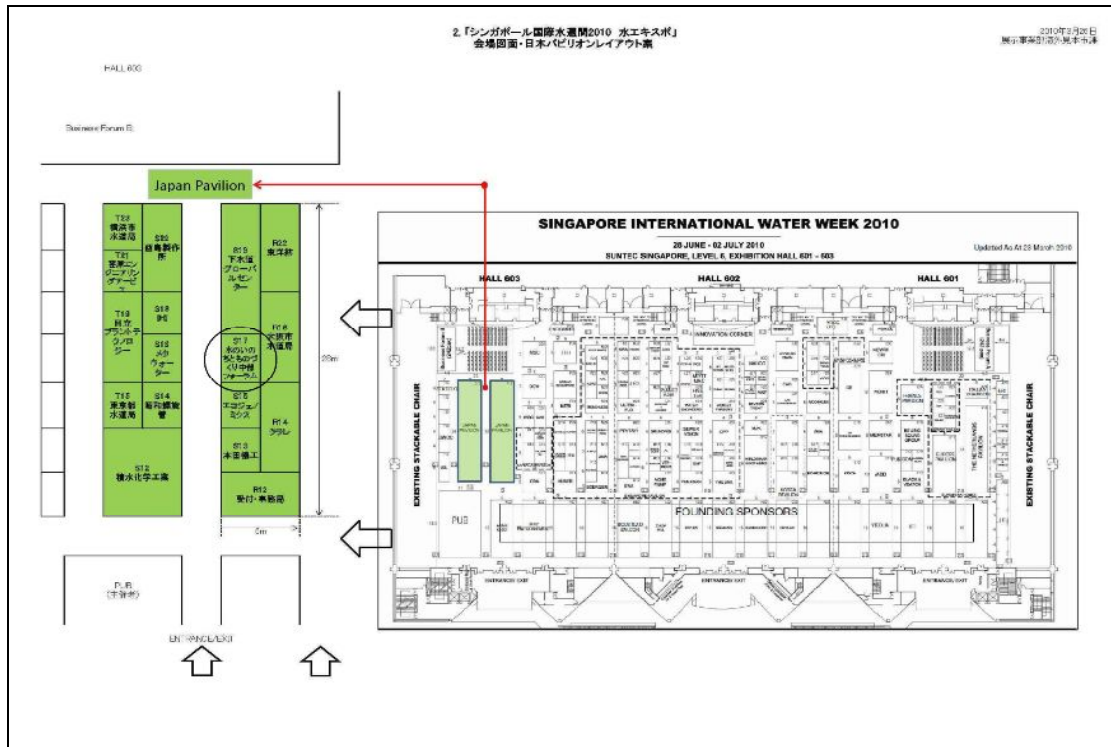
- ・ブース展示では、シンガポール国内およびアジア地域の来場者を中心に、予想以上の関心を持っていただき、本フォーラムの存在感をPRできた。(パンフレット配布数：1200部／ブース個別説明：100件以上)
- ・パンフレット以外に特別な勧誘をしなかったにもかかわらず、多くの来場者にアンケート協力や連絡先(名刺等)をいただいた。特に政府関係者の名前と連絡先を入手できたことは大きな成果である。(アンケート、名刺等：113名)
- ・他のブースでは、パネル展示のみならず、モニター展示、サンプル品の配布など、

様々な手段を使って来場者の勧誘に勤めていた。ブース展示については見劣り感があった。

- ・今回の初出展を試みて、出展すること自体は有意義であることが確認できた。
- ・地域選定をすべく、上記の政府関係者とコンタクトを取り始めている。

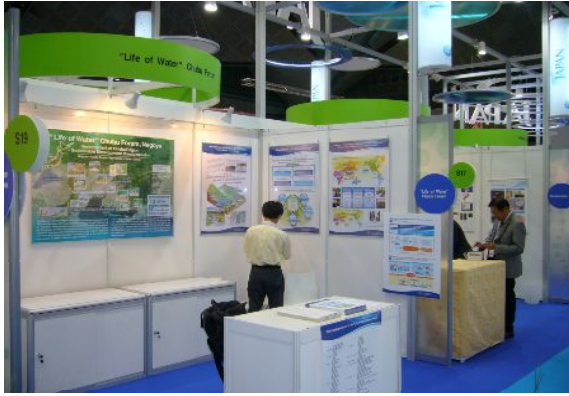
## 7. 会期中の本フォーラムの動き

### ①ブースの位置(丸で囲ってある部分、1小間)



### ②ブース内のレイアウト (別添：パネルデザイン参照 9部)

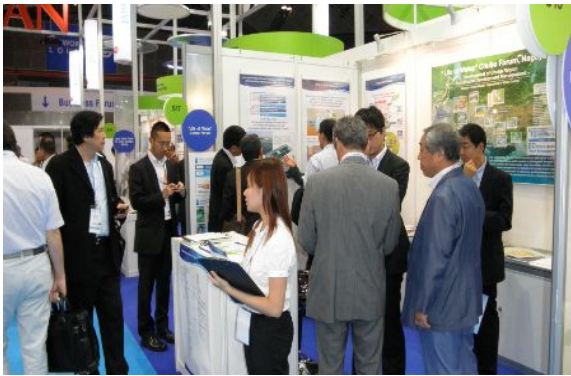




### ③ブース内の様子

海外の水関係者には、本フォーラムに所属する企業・団体が有する水関連技術とサービスノウハウを組み合わせ、多様な水問題のニーズに対する調査、コンサル、実証実験等を提供できることをPRした。また、アジア等の地域に進出する可能性を探るべくアンケート調査を実施した。

ブース内での説明

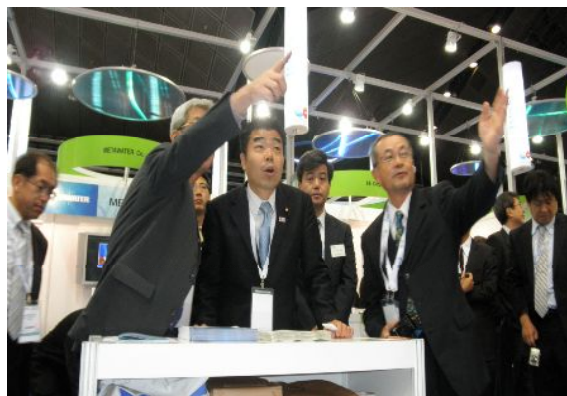
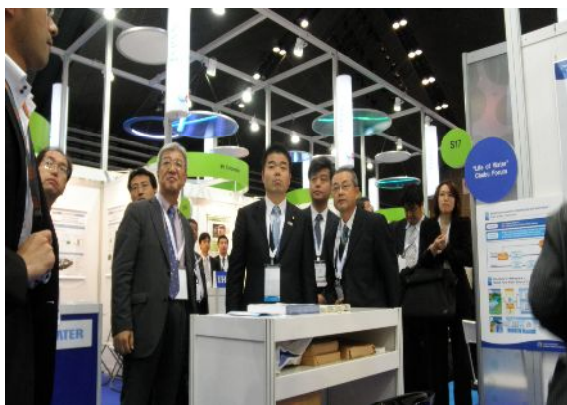


各地域のニーズを探るべくアンケート調査を実施

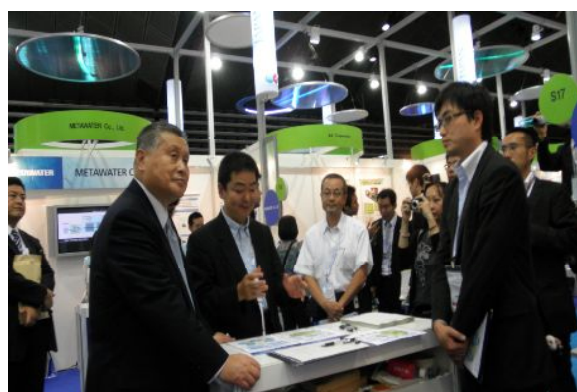
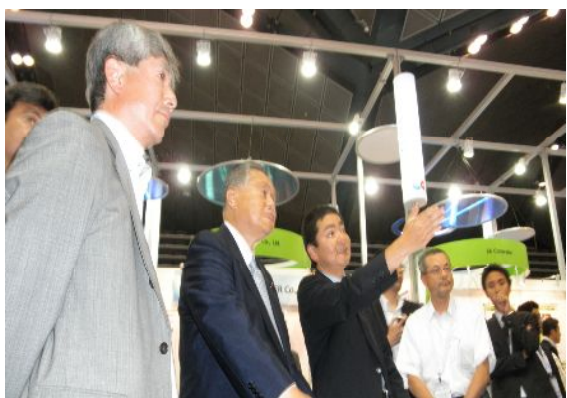




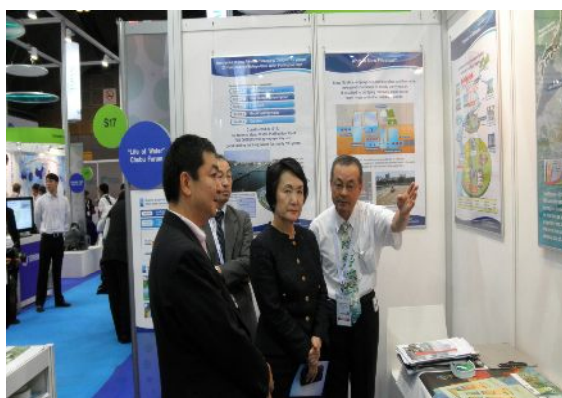
国土交通省の三日月副大臣が訪問



森元首相が訪問



横浜市の林市長が訪問



8. <ご参考>その他のブース

①日本パビリオン内(主なブース)

大阪市水道局



東京都水道局



横浜市水道局



下水道グローバルセンター



メタウォーター



日立プラントテクノロジー





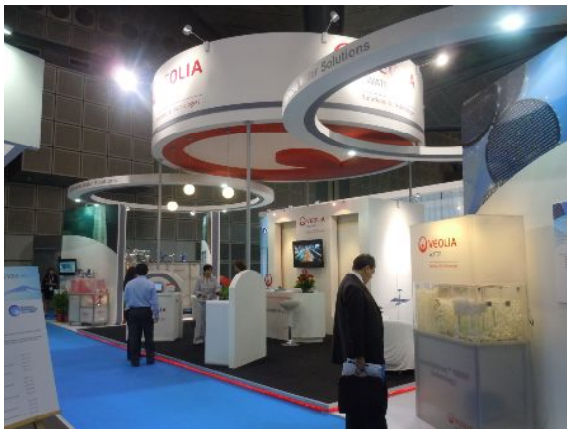
②企業パビリオン(日本企業)  
東レ



旭化成



③企業パビリオン(海外)  
ヴェオリア



シーメンス



GE



ハイフラックス





④各国のパビリオン

シンガポールパビリオン



カナダパビリオン



韓国パビリオン



オランダパビリオン



ドイツパビリオン

